

日語公式詳解

程伯軒編著

生活書店發行

解詳成句熟語式公語日

托概法用辭助附

著編軒伯程

行發店書活生海上

月三年六十二國民華中

日語公式詳解

成熟句語

附助辭用法概托

每冊實價六角

外埠酌加郵費

編著者

程伯軒

發行者

生活書店

上海福州路

第三八四號

印刷者

生活印刷所

版權所有翻印必究

中華民國二十四年十月初版
中華民國二十六年三月再版

青年自學叢書 第二輯 已出各冊

怎樣研究

政治經濟學

柳 湜著 三角五分

本書是柳先生平日和讀者實際討論政治經濟學上許多問題而衍成的結晶。內容包含多方面，諸如研究政治經濟學的意義，研究的準備，研究的順序，政治經濟學上的方法論，以及一切在初學的人都成問題的各點，均一一給予詳明的解釋。本書有下面幾個特點：第一，不是抽象指導書，不是艱深難懂的方法論之類的東西；第二，態度誠摯，討論細緻；第三，材料豐富，並且採用政治經濟學現階段的成果；第四，文字有趣味，能引人入勝；第五，理論正確，在今日中國一切政治經濟學方法論的書中，這是一本最新，最完全的方法論及實際自學書。

中國文字的字演變

童振華著 三角五分

本書是用最新的觀點來介紹中國文字學的基本知識。第一章至第五章，說明文字進化的一般規律和漢字形音義演變的過程，暗示了漢字的前途；第六、第七兩章，是檢討漢字的特點和語文分離的現象，指明漢字改革運動的不可避免；第八、第九章，是詳述漢字改革運動中的各派主張。其中關於別字、手頭字、基本漢字、注音漢字、國語羅馬字、拉丁化等等運動的介紹與批判，尤為詳盡。作者完全站在客觀的立場說話，絕無入情出奴的成見，一掃國粹的或階級的感成文字改革與否，均宜一讀。

青年應當怎樣修養……………貝葉……………三角半
中國社會性質問題論戰……………何幹之……………四角
新哲學的人生觀……………胡繩……………三角半
文藝思潮小史……………徐懋庸……………三角

上海生活書店發行

再
版
序

讀日、文書、文法、難、文章、解剖、尤難、縱、文法、澈底、如不能解剖全文、是猶盲人摸象、終不得其真相。文法澈底矣、文章全部亦能解剖矣、然猶不能悟其真相、是蓋「公式」爲之作梗也。此「公式」即「成句熟語俗諺」既不見於文法（有少數雖見諸于文法、亦難于檢索）更不載于字典、除以八年十年長期間之領悟會意與一一詢諸日人而外、則只有望洋興嘆莫可奈何！余自身學習日文時、即痛感無此等參考書之苦、於此次教授日文時、尤感其必要、爰著此書、以利學習日文者。惟初版時因催促日至、匆促付梓、致校對未能充分、誤植濕字、爲數至夥。際茲再版、大加校訂、且目錄亦復改排、按「アイウエオ」次序俾易檢索。更續著第二第三兩篇、載有公式五百四十餘個、將所有成句熟語俗諺、包羅殆盡、學者得此、庶於一切難問題可迎刃而解。又此書問世後、接各方讚揚信件甚多、以忙於第二第三兩篇之執筆、未能一一裁答、謹于此誌謝。

程伯軒識于中原別墅

一九三五、七月、

自序

民國二十三年夏、重遊東京、初擬一試海水浴即回、嗣以新來日本諸親友之懇請、留授日語、其後、來學者日益衆、授課亦益繁、篇中成句熟語、層出不窮、初學者每苦不得其解、即能解、亦常苦於不能得其恰當之譯義、爰於授課時、錄出其成句熟語之類、詳加解釋、編著成書、俾讀日語者、一覽即得其真諦。惟此書成於授課之餘暇、倉卒寫來、疎漏難免、斯則希各先輩、加以指正爲幸。又此書所列二百題外、尚有百餘題未曾書就、因催索出版者、日必數起、遂匆促付梓、他日有暇、當再出續編、以期完璧。

民國二十四年一月 程伯軒序於東京中原別墅

(頁)

ア部	有るだけ	八	イ	好い鹽梅	一七〇	オボツカ	覺束ない	一三三
ア	飽くまでも	五〇	イ	言ふまでもない	一九二	オリカラ	：折柄	二三六
ア	恰も…やう	查	イ	一体全体	二二六	チヤ	お茶を濁す	二二七
ア	宛も…如く	查	イ	況や…をや	二二〇	カ部		
ア	宛も…如く	一八四	イ	致し方無く	二六	カ	：代り	二三
マ	有るが儘に		ウ	上	三	オモ	：代りに	三三
イ部	以上		ウ	上	三	オモ	かと思ふと	一六
イ	幾ら…ても	三〇	ウ	裡を切る	三		：から	五九
イ	いはば…	六	ウ	打つて變つて	一八		からとて	六〇
ナ	いやおう無しに	一三	ウ	…ヨウとする	二九		からとて…ものではない	三
イ	今更	一七	オ部			シ	：か知ら…	九
イ	曰く附きの	一四	オ	…	五	カ	：感じがする	一〇四

極^{キョク}つて居る
 キ 部
 考^{コウ}へよう
 必^{カナラ}ずしも…ない
 かも知^シれない
 片^{カタ}が付^ツく
 が片^{カタ}付^ツける
 か道理^{ドウリ}で
 が早^{ハヤ}いか
 加^カ減^{ゲン}
 …観^{カン}を呈^{テイ}して居^キる
 …か…ない内^{ウチ}に
 合^{ガツ}點^{テン}が行^ユかない

二九 氣^キにする
 二四 氣^キに入^イる
 二五 氣^キが氣^キでない
 二九 氣^キを取^トられる
 二八 氣^キがする
 二二 氣^キを附^ツける
 二五 …切^キつて
 二九 切^キり…ない
 二八 机^キ嫌^{ゲン}を取^トる
 ク 部
 工^グ合^{アヒ}
 具^グ合^{アヒ}が好^コい
 具^グ合^{アヒ}が悪^{ワル}い

二五 ケ 部
 二七 見^{ケン}當^{ダウ}が付^ツく
 二八 見^{ケン}當^{ダウ}が外^ヘれた
 二九 決^{ケツ}して…ない
 コ 部
 二二 こととなつて居^キる
 二二 ことになつて居^キる
 二二 こそ初^シめて
 二四 言^{ゴン}語^ゴ道^{ドウ}斷^{ダン}
 サ 部
 二九 さもなければ
 二七 さなきだに
 二七 さればとて

沙汰サダの限りカリ

二三五

セ 部

さへ

一八九

せねばならぬ

五

それはさて置きオ

九五

騒サワぎどころではない

二九

是非ゼヒ

毛

それはその筈ハズ

一四

シ 部

しなればならない

五

是ゼが非ヒでも

毛

相違ソウキない

二〇

しかゝない

二六

折角セツカク

六

タ 部

しない内ウチに

二八

世話セワを焼ヤく

一三〇

だけあつて

九

仕方シカタがない

一五

せんすナでも無く

一五

だけに

一〇

仕様シヨウがない

一五

詮方セシカタなく

一三

だけ

二

随シダガつて

二五

世話セイワない

二四

丈ダケ

三

ス 部

するかしない内ウチに

一九

そのみか

三七

爲タめに

一四

すればする程ホド

三四

それよりも

三

たら宜ヨかつた

一四

たら好いの^ヨに

只^{ダダ}で

只^{ダダ}の

だも

チ 部

陣取^{チント}つて居^キる

ツ 部

積^{ツモ}り

詰^{ツマ}り

詰^{ツマ}る處

詰^{ツマ}らない

テ 部

でなくて何であらう

一四

で濟^スむ

九

と思^{オモ}つたが…

九

一五

手^テ出^ダしをしようものなら

二三

と思^{オモ}つたら

二〇

一五

手^テを出^ダす

二三

通^{トボ}り

三三

一六

手持^{テモ}無^ム沙汰^{サダ}

二六

どんなに…ても

四五

出張^{テバ}つて

二九

どんな…ても

四五

一七

手^テ加^カ減^{ゲン}

一六

ともなく

四四

出^デ來^キる丈^{ダケ}

一八

どうして

四四

出^デ來^キ得^ウる限^カり

一八

どうしても

四四

手^テ入^イれ

一七

とでも言^イふのか

四四

手^テに入^イれる

一八

とは言^イへ

四四

ト 部

と言^イふ

四四

と言^イはんばかり

一

どちらかと言^イへば

七一

とばかり

三

ともすると

八二

取りも直さず	ナホ	六	兎に角、兎も角	トカク	三	にせよ、にしろ	ホカ	四
途端に	トダシ	三	ナ 部			に外ならない		六
と相俟つて	アヒマ	四	何となく	ナシ	四	に過ぎない	ス	六
ともすれば		一五	なければならぬ		五	に就いては、に付いては	ツ	八四
途方に暮れた	トボツ	一三	乍ら	ナガ	三	に依る、に依つては	ヨ	六
途方も無い	トボツ	一四	何はさて置いて	ナニ	四	に依れば、に依ると	ヨ	九七
とは限らない	カキ	二七	ない内に	ウチ	二	に若くはない	シ	二〇
ところで		二八	猶更	ナホサラ	一	に及ばない	オヨ	一四
ところではない		二八	何しろ	ナニ	二	に當るまい	アダ	一五
どころか		三〇	何分、何分にも	ナニブン	二	に近い	チカ	一
と見える	ミ	三三	ニ 部			に附け	ツ	〇〇
としては		三三	に拘らず	カカハ	三	に附けて	ツ	〇一
として		三四	にもづらず	ハ	三	に付き	ツ	〇二

に^ツ連れて

二〇三

の^ニに

二〇五

二つ返事で

一六

に^{シタガ}随つて

二〇三

の^ホで

二〇五

吹き出す

二六

には^フ居られない

二〇六

の^ホ方が増した

二〇三

ホ部

二六

に^{チガ}違ひない

二〇〇

の^{ツモ}積り

二〇一

外^{ホカ}にない

二六

に^{カキ}限る

二〇七

ハ部

程^{ホド}

二三

には^{カキ}限らない

二〇七

筈^{ハズ}

二〇四

程^{ホド}：ない

二四

に見^ミ舞はれて

二二二

跳ね附^ツける

二〇七

マ部

二六

に見^ミえる

二二二

ヒ部

前^{マヘ}に述べた通りです

二六

ネ部

念^{ネン}入り

二二四

引き揚^アげる

二〇五

間に合ふ(間に合はない)九一

二七

念^{ヤシ}の爲^{タメ}に

二二五

強^ヒいて：ならば

二〇〇

稀^{マレ}にある

二七

の部

のみか

三七

フ部

二〇四

まで

二九

皮^ヒ肉^{ニク}

二〇四

満更^{マンゼラ}：ない

二九

況^マしてから
眞^マに受^ウける

三三

持^モて餘^アす
尤^モもらしい

八〇

やうに
よりも寧^{ムシ}ろ

三四

ミ 部

見^ミ附^ツかつた、見^ミ附^ツけた

二五

勿^モ体^ツない

一三

據^ヨどころなく

一五

見^ミ事^ゴに

二四

勿^モ体^ツ振^アつて居^キる

一四

ヲ 部

メ 部

滅^メ多^タにない

二七

申^モ譯^シない

二九

を：んばかり

モ 部

もあらうに

六

ヤ 部

二〇

を物語^{モノノカタ}る

二

最^モ早^{ハヤ}

二七

焼^ヤ餅^{モチ}を焼^ヤく

一三

を^ミ見た^ミを、^ミ見るに^イ至^イつた

文^{モン}字^ジ通^トり

三

や否^イや

一七

を^ウ裡^ラ切^キる

もの

六

役^{ヤク}に立^タつ

二四

を^カ片^{タツ}附^ツける

勿^モ論^ロ、無^ム論^ロ

七

ヨ 部

を^キ禁^シじ得^エない

二〇六

……と言はんばかり

【解】

- (A) 簡直以爲……
(B) 幾乎要說

例

(A) 論文ろんぶんを頼たのまれた時とき、これは俺おれの得意とくいだ

と言はんばかり早速さつそく書かき始はじめた。

【釋義】「頼たのまれた」是「被人拜託」之意。

「得意」即「拿手的本領」

【譯文】有人拿論文來拜託時、簡直以爲是自己的拿手的本領、立刻便開始寫起來。

【解說】「と言はん」即「と言ふ」之第一變化加「ん」、「ばかり」本解作「只是」此處轉用解作「簡直」「有人拿論文來拜託請代做的時候。簡直以爲這件事、完全是我的拿手、心裏這樣想着、可是沒有說出來、所以「と言はんばかり」是想說而沒有說、表示一種內心情態的流露。

(B) 國くにから一通いっつうの書留かきとめが舞まひ込こんだ、此これは占しめたと言はんばかり、嬉うれしく封ふうを切きつた。

【釋義】「一通」即「一封」之意。「書留」即「掛號信」。「舞ひ込んだ」原意爲「飛舞投來」、

在此乃轉用、即「投進來」之意、「占めた」原意爲「占領了」、在此爲「這可好了！成功
了有望了」等々之意。「封を切つた」即「拆封、開封」之意。

【譯文】從國內來的一封信掛號信投進來了、心想這可好了、很高興的將封套剪開了。

【解說】得着國內來的一封信掛號信、心想這次也許有錢寄來了、因爲掛號信多是寄錢、
不覺非常高興幾乎脫口歡呼起來、說：這可好了、不過是幾乎想說出而終沒有說出而
已。

……を取らんばかり

(……を(動詞第一變)んばかり)

【解】幾乎要……………

例

孫權そんけんが諸葛亮こくわの來るのを見るや手を取らん
ばかりに嬉しく歡迎して呉れた。

【釋義】「見るや」是「一看見就……」之意。

「呉れた」是補助動詞僅表示是爲諸葛亮而歡迎而已。

【譯文】孫權一看見諸葛亮走來、就幾乎要握他的手、很歡喜的迎接着。

【解說】孫權看見諸葛亮來了、高興得幾乎要握他的手、然實際是沒有握、不過是表

示高興的程度、與高興時忘情的形態而已。

……とばかり……
【解】 一心以爲……
宛然以爲……

例

(A)

田舎者ゐなかもものが都市としの空そらの眞赤まっかに成なつて居ゐる
のを見みて此これは大おほくわじ火事だとはふるかり慄ふるへ
て居ゐる。

【釋義】 「田舎者」即「鄉下人」。「空」即指「天空」。「眞赤」乃「非常紅」之意。「大火事」即

「大火災」、「慄へて居る」乃「害怕而戰慄」。

【譯文】 鄉下人看見都市的天空非常發紅、一心以爲是發大火、害怕得發抖。

【解說】 看見天空發紅、卽眞以爲是發大火、所以「とばかり」是完全表示其瞬間之眞情。

(B) 「ベーブ、ルース」は野球場やきゅうばやうの「ダイヤモンド」に這入はいるや我わが物ものとばかり笑わらひ乍はら
意氣揚揚いきようようと「バット」を頻しきりに振ふつて居ゐる。

【釋義】 「ベーブ、ルース」即「Babe Ruth」乃「美國野球王」。「ダイヤモンド」卽「diamond」

乃指野球場所畫之一切界線而言。「我が物」即「自己的東西」、此處表示「是我的最得

意的。「バット」即「bat」乃打球棒、「振つて居る」即「將球棒舞動着打球」。

【譯文】「露斯」一進到野球場的界線、宛然以為是自己最得意的、一邊笑一邊意氣揚々の頻々舞動着打球棒。

【解說】「とばかり」在此處完全表示「宛然以為是這樣、或簡直以為是這樣」之意。

……………ばかり……………

【解說】

只有、僅是。

(C)(B)(A) 剛才。
大約。

例

(A) あの人ひとは口くちばかり上手じやうずで學問がくもんが少しすこもない。

【譯文】那個人、專只是一張口會說、學問

一點都沒有。

(B) あの人ひとは昨日きのう日本にほんに來たばかりばかりだから日本語にほんごの五十音ごじゅうおんも分わかりません。

【譯文】那個人剛只是昨天來日本的。所以日本話的字母都不知道。

(C) この本ほんは十日じゅうにちばかり掛かつて出來上できあがつた。

【釋義】「掛つて」乃「費了」。「出來上つた」是「製成」。